

科目名 Course Name	コミュニケーション技術 I Communication skills I				ナンバリング No.	J1-006	
年次	1 年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	大熊 信成						
連絡方法	C-Learning で対応。または社会福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修／選択	選択(介護福祉士養成課程必修)						
関連 DP	DP2, DP3, DP4						
授業の概要と 到達目標	「コミュニケーション技術 I」では、介護におけるコミュニケーションの意義や目的等について学習し、コミュニケーション技法の習得を目指す。さらに、さまざまな介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションのとり方について学習する。 ①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について、説明できるようにする。 ②傾聴、質問、相談・助言・指導の技法など、さまざまなコミュニケーション技法の要点を列挙できるようにする。 ③プロセスレコードの目的や方法について説明でき、日常における場面の再構成ができるようにする。 ④プロセスレコードを作成し、自己および他者の言動について考察できるようにする。						
授業の方法	事例をもとにロールプレイやグループディスカッションを行い、利用者の状態や状況に応じたコミュニケーションについて考える授業とする。また、学んだ基本知識を実際のコミュニケーションに活かせるようにする。リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに介護福祉士国家試験対策も行い、知識の定着を図る。						
学習成果	L01						
	L02	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、利用者や家族とコミュニケーションを図る際の留意点をふまえ、さまざまなコミュニケーション技法を習得することができる。					
	L03	プロセスレコードの考察・自己評価を通して自己の傾向に気づき、コミュニケーション技術の向上に役立てることができる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。						
教科書／ 参考図書	最新・介護福祉士養成講座 第 5 巻「コミュニケーション技術」第 2 版 中央法規出版 他 授業中に指示し、資料を配布する。						
履修上の留意点 やルール等	一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。介護福祉士養成課程の学生のみ履修可。						
担当教員の実務 経験							

成績評価の方法と基準							
評価の領域	評価基準	学習成果の割合					
		L01	L02	L03	L04		
授業参加態度	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。		20				
レポート／作品	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価である S は意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。		20				
発表							
小テスト							

試験	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。			60	
その他					
合 計			40	60	

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(授業概要と進め方・成績評価の方法など) 介護におけるコミュニケーションとは① コミュニケーションの意義と目的 【講義】
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.2～4
2	授業内容	介護におけるコミュニケーションとは② コミュニケーションの基本 【講義】
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.4～9
3	授業内容	介護におけるコミュニケーションの役割 【講義】
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.9～10
4	授業内容	介護における生活支援とコミュニケーション① 介護技術とコミュニケーション 【講義】
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.11～18
5	授業内容	介護における生活支援とコミュニケーション② 介護福祉士に求められるコミュニケーション 【講義】
	事前・事後学習	介護福祉士に求められるコミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.11～18
6	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション① 話を聴く技法 【講義と演習】
	事前・事後学習	傾聴について調べておくこと。テキストp.22
7	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション② 利用者の感情表現を察する技法、納得と同意を得る技法 【講義と演習】
	事前・事後学習	バーバル・ノンバーバルコミュニケーションについて調べておくこと。 テキストp.168～187
8	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③ 質問の技法 【講義と演習】
	事前・事後学習	質問の技法についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.168～187
9	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション④ 相談・助言・指導の技法 【講義と演習】
	事前・事後学習	相談・助言・指導についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.168～187
10	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑤ 利用者の意欲を引き出す技法 【講義と演習】
	事前・事後学習	意欲を引き出すアプローチについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.168～187
11	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑥ 意向を調整する技法 【講義と演習】
	事前・事後学習	ファシリテートの意味について調べておくこと。 配布資料を参照すること。テキストp.168～187
12	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑦ 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション 【講義と演習】
	事前・事後学習	場面を想定してノートにまとめておくこと。テキストp.168～187
13	授業内容	自己理解と他者理解① プロセスレコードとは 【講義】

	事前・事後学習	プロセスレコードを作成すること。提出すること。配布資料を参照すること。
14	授業内容	自己理解と他者理解② プロセスレコードの記述方法【講義と演習】 〈プロセスレコードを考察して提出〉
	事前・事後学習	プロセスレコードの発表を行う。準備をしておくこと。配布資料を参照すること。
15	授業内容	自己理解と他者理解③ プロセスレコードの考察・自己評価【演習とまとめ】 〈プロセスレコードの評価を提出〉
	事前・事後学習	プロセスレコードの発表を行う。準備をしておくこと。試験対策を行うこと。